北響かわらばん

2015（平成 27）年 11 月９日発行　Ｎｏ．２

発行：北海道公立小中学校事務職員協議会
発行責任者　常陸　敏男
編集責任者　田中　邦彦

10月に第１回北海道学校実務要覧編集委員会が開かれました。

「北海道学校実務要覧編集委員会」より･･･次回の追録内容です。

北海道学校実務要覧　追録 170・171 号　編集内容

第１巻
- 第 65 回全道事務研究大会の概要について
- 休憩時間の付与の方法について(追加)
- 少年団の指導に従事する場合の服務上の取扱について(追加)
- 一時保護等が行われている児童生徒の指導要録に係る取扱について(追加)
- 児童生徒に係る事故報告について(差替)
- その他微修正

第２巻
- 初任給の決定に関する一部変更
- 給与一覧の一部変更
- 旅費に係る様式、文言の整理
- 市町村立学校職員の昇給及び勤勉手当にかかる取扱要項の一部改正について
- 児童手当、特殊勤務手当、寒冷地手当、退職手当の様式、文言の整理

第３巻
- 被扶養者の認定に関する実例の一部変更
- 組合員証に係る様式変更に伴う記入例の変更
- 災害見舞金にかかる添付書類の様式変更に伴う記入例の変更等
- 互助会　自動車資金貸付について

第４巻
- 北海道主要駅キロ程・運賃・急行料早見表
- 鉄道旅客運賃計算キロ程表
- 急行料金
- 学校別陸路キロ程運賃表(石狩・空知・留萌)

北海道学校実務要覧様式集　編集内容
- 教員特殊業務手当支給調書
- 特殊勤務手当支給実績簿
- 委任状

北実コラム

今回の編集委員研修会は運命のいたずらなのか？何から何まで1巻づくしの回であり、毎回の編集作業を行うのは責務として、このコラムを書き、業務終了後の夜の懇親会を企画･運営し、終了後には後日東京での校正確認作業があるのですが、これも1巻の２人でこなす、という泣く子も黙るハード(筆者自身７年間受け持って来て初めて)な回です。

ハードな回には荒れ模様がつきもののようで、初日には前回報告と会員からの情報提供･編集方針の確認だけで半日も費やしてしまう(通常は３０分程度で終わる内容なので、編集側としては大変有り難いことではあります)と云う状況だったそうで、その分編集作業の時間が少なくなるため大変な状況になって（私自身も1日目が「局主催の事務研修会」と重なって編集委員研修会を欠席したために、２日目以降の編集作業は結構涙目で…）いました。２日目も朝から道東に接近していた超大型台風の強風の影響(この日の札幌の最大瞬間風速は３０mの大台超え!)を受け、編集場所であるぎょうせい北海道支社が入っている高層ビルがミシミシ音を立てて長周期で揺れている初めての状況に肝を冷やす場面もありました。

そんな状況でも、２年任期の折返しを迎えた各編集委員はそれぞれプロの仕事師としてしっかり改編作業を進行させ、最終日の朝には校正の確認作業が出来る状況にまで持ってきました。しかしいつもより余裕を持って確認作業に臨んだはずなのに、結局のところは再修正･追加の嵐となり、全部終わってみるといつもの終了時間になっていました。そんなこんなで今回はいろいろハードな事がありましたが、また次回（２月）も冷静沈着をモットーに北実の編集作業を行って参ります。

また、皆さんの意見で更に充実していく「北実」ですが、編集作業の中では目の行き届かなかった箇所のご指摘やご要望等がありましたら些細なことでも遠慮なく、実務要覧の「1 巻目次」の前にある連絡先まで情報提供をお願いいたします。ご意見ご要望が多い程、編集委員の活力にもなりますし、ひいては全道協議会の活性化にもつながってほしいことを願って…

（今回の当番～　１巻担当：上野）

今年の全道事務研より

【第１分科会】

・・・この他の全道研の模様は次号以降でも紹介していきます

全道協議会ホームページリニューアル～知恵ぶくろを使ってみよう！！

全道協議会ホームページを 9 月 10 日にリニューアルしました。新しいコンテンツ「協議会版知恵ぶくろ」を追加しました。協議会版知恵ぶくろは、日頃の仕事をしていて疑問に思ったことを、全道の会員に尋ねる掲示板です。日頃の疑問を知恵ぶくろに聞いてみましょう。

＝協議会ＨＰ　会員専用ページ：「ID」（ユーザー名）　：74q7h　「パスワード」：gwh28　半角英数＝

本部の動き

11 月 12 日	第 100 回渡島公立小中学校事務研究大会	常陸	知内町
11 月 12 日	教職員共済創立 50 周年記念事業	田島　橋本　小菅	札幌市
11 月 19 日	第 3 回役員研修会		札幌市
11 月 20 日	研修担当者研修会		札幌市

あとがき

今年の全道事務研は、大会運営の省力化を意識して行いましたが、最近ある研究集会に参加しましたが、こちらの集会もいろいろな所で省力化が行われてました。子どもの数の減少にともない、教職員数はだまってても減少、財務省の考えではもっと減少という流れの中で、いかに研究集会の質を維持していくための省力化です。

諸環境がめまぐるしく変わっていく中、今まで積み重ねた研究の発表の場を盛りさげない努力は大事だと思います。（邦）